

守る会岡山 55号
2024. 6. 1 発行

森永ひ素ミルク中毒の被害者を
守る会岡山

岡山県本部事務局
〒700-0984 岡山市北区桑田町18-28
明治安田生命岡山桑田町ビル4階
086-232-3855



今年の夏も異常な暑さが予想されます。

今から暑さに備えて健康に過ごしましょう！

デマンド交通について！

岡山県本部 森脇 良明

人口の減少や高齢化社会の中で、民間バス路線の撤退や減少から、各自治体とも住民の足の確保に策を講じていますが、公営バスなどの運行で不便エリアの解消ができていない自治体はわずかなようです。

山陽新聞に、自治体の使命というコラム記事の特集が、数回にわたって掲載されております。山陽新聞が岡山県内の27市町村に公共交通の現状をたずねたアンケートでは、約7割の自治体が担当職員の不足を挙げ、8割近くは予算全体に占める公共交通関連事業は1%未満と回答したそうです。

しかし、私もビックリしたのですが、複数の利用者から予約を受け、自宅から目的地まで乗り合いで送迎するデマンド交通は、導入・一部導入を合わせると岡山県内の27市町村の20市町村が導入しており、民業圧迫への懸念等の理由で導入していない市町村は笠岡・浅口市・里庄・矢掛・勝央町・新庄・西栗倉村の7自治体だけでした。

備前市では、車を持たないお年寄りの足として、自宅から病院やスーパーまで、ドア・ツー・ドアで送迎する車両が全10小学校区に1台ずつ配備され、1回200円で利用でき、マイナンバーカードを提示すれば無償といったメリットから、

月間千人前後が安定的に利用しているそうです。しかし地元タクシー会社への影響は大きく市内7社の内2社が廃業に追い込まれたようです。

守る会員のみなさんからのアンケートでも、加齢とともに車を手放した後の足の確保が不安ですと言った意見が多くありました。

各自治体の使命とされる生活交通と地域の舵取りは難しいという事は理解しましたが、最適回答を見つけるにはアンケートやヒアリングで住民の意向を把握し、対処して欲しいと思いました。



森永粉ミルクにひ素混入発表の直後（昭和30年8月25・26日）

岡山県立記録資料館所蔵

昭和30年8月24日の夕刊で森永粉ミルクにひ素混入が発表されました。その翌日25日と26日の画像が岡山市北区南方の岡山県立記録資料館に保管されています。その中の数点を選んでみました。



日赤病院は押し寄せた受診者の為に岡山駅～日赤病院の間に無料送迎バスを走らせた。



岡山日赤病院のロビーは乳児を抱えた親子で大混乱になった



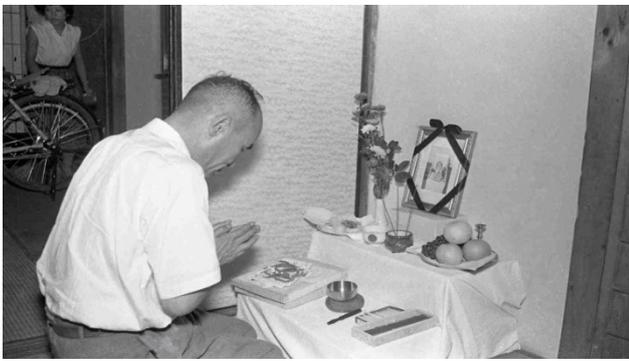
廊下には不安を抱える親子で溢れかえった。

診察を受ける乳児の後ろには診察を待つ行列。

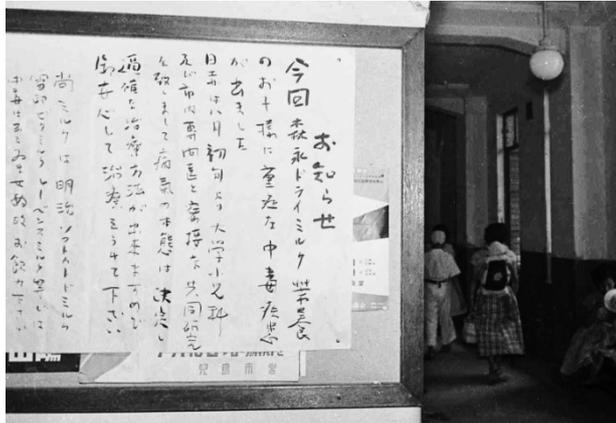
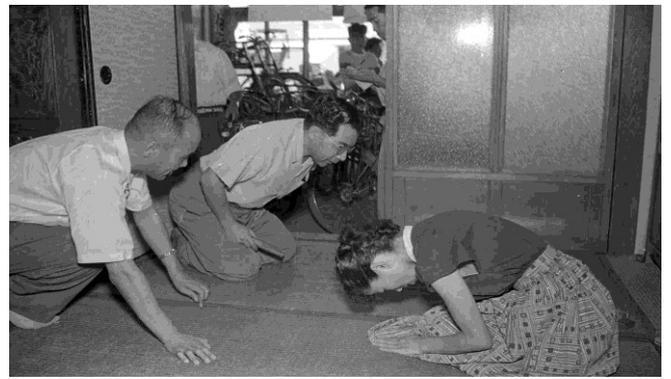
飲んだミルク缶を確認する医師。



皮膚は黒ずみ剥がれ落ちた。



亡くなった乳児に手を合わせる。



ロビーにはお知らせが貼り出された。



お知らせ 今回森永ドライミルク栄養のお子様に重症な中毒疾患ができました。日赤は八月初旬より大学小児科及び市内専門医と密接な共同研究を致しまして病気の本態は決定し適確な治療方法が出来ますので御安心して治療をうけて下さい。尚ミルクは明治ソフトカードミルク雪印ビタミルクレーベンス等では中毒は出てゐませぬ故お飲み下さい。(原文のまま)

自主的グループ活動 「なでしこサークル料理教室」



なでしこサークルはくらしき健康福祉プラザで2か月に一回開催している料理教室です。

講師の先生は私たちより年上なのですが、そんなことは微塵も感じさせない若くて元気なパワー溢れる方です。いつも最後に試食しながら「次回は何を作りますか？」とみんなの意見を聞きながら決めたメニューを自宅でも何回も試作をして、どうすれば簡単に美味しく作れるかを考えてくれています。家族からは「もうこれは食べたくない。」と言われるぐらいだそうです。その結果、毎回の調理実習はみんなでワイワイガヤガヤ、ドタバタと賑やかに楽しく進んでいます。もちろん、試食タイムは大満足です。参加者もだんだん増えて楽しんでいます。みなさんも参加しませんか？ 3

森永ひ素ミルク中毒事件の歴史 その9

備中支部 平松 邦夫



「丸山報告」(1969年10月)の後、会社は「お願い」を内容とする対応を厚生省に要請します。これを受けた形で、厚生省は1970年11月、岡山県に被害者の検診を委託。岡山県は1971年2月から向こう2年間にわたり、その検診(官製検診)を実施します。そしてそのさ中の1971年7月、会社はそれまで続けていた守る会との本部交渉を一方的に中断すると宣言し、本部交渉は中断を余儀なくさせられます。中断理由は「岡山県検診の結果を待って交渉したい」ということでした。まるで、検診結果の発表内容が会社に有利に働くことを見越しているかのような態度です。しかし、その結果は会社が期待していたと思われる内容にはならなかったのです。岡山県検診の結果は、2年間の実施期間を経て、1972年12月5日に発表されます。それは要旨「当時の患児達は憂慮すべき経過を辿っているとは考えられず、遺伝と環境の交錯した

思春期にある一団の健康構造を示している」との表現で、この内容からは被害児が問題のある状況で生活しているとはとても受け取れません。実際、一部の委員からも異論が表明され、当時、国会での質問を受けて厚生大臣は「岡山県検診は遺憾である」と表明せざるを得なかったのです。結果として会社の目論見は外れるのですが、そこに至る過程では、委員会内で激しい議論の応酬がありました。次回では、その一部委員による委員会での医療倫理に根差した活動を紹介します。



読者投稿

備前支部 大藤 美保子

花は咲き 花は散りけり 人の世の 永遠の祈りを たれかささげん
桜花 散るや散らずや 散る運命 散りて知りたる 二世の契りを

ご投稿ありがとうございます。編集部



岡山県本部行事予定

6月23日(日) 森永ひ素ミルク中毒の被害者を守る会 第56回全国総会 会場ピュアリティまきび
7月6日(土) 森永ひ素ミルク中毒の被害者を守る会 第56回岡山県総会 会場岡山国際交流センター
自主的グループ活動

○守る会の歴史学習会 ○なでしこサークル ○ウオーキング○楽生～関節クラブ

守る会岡山県本部活動

支部集会 ○備前・備中合同支部集会(グランドゴルフ)

○美作・備中合同支部集会(料理教室・花見等) *開催日等はお問い合わせください。

機関紙「守る会岡山」に記事投稿、エッセイ、活動報告、制作作品など
どしどしお寄せください。お待ちしております。

「守る会岡山」ホームページ <http://www.mamorukaiokayama.sakura.ne.jp>